

せたがやの文化財

No.037

編集 | 世田谷区教育委員会事務局
発行 | 生涯学習課文化財係

〒154-0016 世田谷区弦巻3-16-8

Tel 03-3429-4264 Fax 03-3429-4267

<https://www.city.setagaya.lg.jp>

発行日 令和7年3月31日



撮影:有限会社田中木工

茅葺屋根の葺き替えの様子

鈴木家住宅穀倉保存修理工事

令和6年度の区指定文化財保存事業費補助金を活用し、鈴木家住宅穀倉（等々力2丁目）の保存修理工事が実施されました。建造物の保存修理は、文化財を維持していくために必要な工事で、日常的に行われる小さな修理と約100年を単位に行われる半解体や全解体をする大規模な修理があります。今回の工事は建設後150年を迎え初めて行う修理で、基礎や傷んだ骨組み、外壁、屋根の修理を行う大規模な工事になりました。

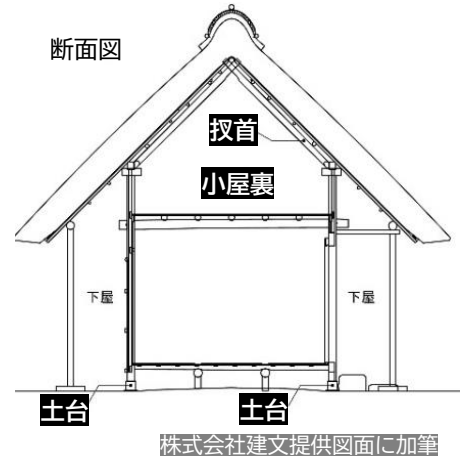
修理では、腐朽した土台の交換、剥落した土壁の補修、劣化した茅葺屋根の一部が葺き替えられました。茅葺屋根は、区指定文化財に指定された平成21年以来の修理で、傷んでいる箇所のみを葺き替える方法を取っています。土台や土壁は、風雨の影響などで劣化や腐朽が進んでいたため、今回の茅葺屋根工事にあわせて修理されました。

鈴木家住宅穀倉とは

今回修理した鈴木家住宅穀倉は、区内に現存する数少ない穀倉であることから、区の指定有形文化財に指定されています。鈴木家は江戸時代からある旧家で、かつては農業の傍ら炭と薪を商っていました。炭は多摩川を下る筏流しに運ばせ、運んだ炭は野毛と玉堤の境にある多摩川岸の「炭河岸」と呼ばれた場所で荷揚げが行われたといえます。木材を扱うことから、鈴木家ではのちに材木屋を経営していましたが、現在は廃業しています。

穀倉は木造で、1間半(3,045mm)×2間(3,636mm)の小規模な建物です。穀倉の建築年代は、内壁に「明治八年 亥年」の墨書きがあったことから、この時に建てられたものと考えられます。

礎石の上に土台を敷き、その上に柱を立てています。柱の頭には短い木材を取り付け、屋根を支える扱首を取り付けたシンプルな構造です。小屋裏には梁がなく、荷物を入れることができるようになっています。



修理の概要

文化財の保存修理では、文化財の価値が失われないように、健全な部分は極力残し、腐れなどがある部分のみ取り除き新材で補うことが基本とされます。今回もその方針で工事されました。

【基礎】

基礎と地盤の凸凹や傾きを水平にするための不陸調整をしました。同時に土台の腐った部分を取り除き新しい部材で補いました。この修理のために、建物を持ち上げています。



建物を持ち上げたところ

【木部】

土台をはじめ、木部は腐った部分を取り除き、同種の木材で補いました。新材には「令和六年度修補」と朱書きして、色合わせの塗装をしています。壁に貼ってある板材を一旦取り外したところ、全て和釘と呼ばれる角張った釘で留めてありました。また、釘を抜いた痕跡がなく、建設以来一度も修理がされていないことが分かりました。復旧する際も、和釘を使って板を張りました。



和釘

撮影：有限会社田中木工

【土壁】

次に、部分的に落ちていた土壁の左官補修をしました。全体を塗りなおすのではなく、剥がれてしまった場所だけを直しました。部分的に下地の竹小舞から丁寧に修復しています。土壁は荒壁と呼ぶ仕上げで、混入する藁スサの大きさや色味、質感などが変わらないように、サンプルを作って確認をしました。



土壁補修

撮影：株式会社建文

【屋根】

茅葺きの屋根は、層になって葺かれている一番下の茅を残し、上部の茅は新材に葺き替えました。また屋根の下地になる竹材なども部分的に新材に取り替えています。復旧工事では、解体する前の工法を踏襲して、縄で結わえた下に杉皮を敷き込み、雨漏りの対策をしました。棟は竹簧巻きと呼ばれる世田谷地域でよくみられる形です。



茅葺屋根の葺き替え

撮影：有限会社田中木工

工事は2月に完了し、綺麗な姿になりました。内部は非公開となっていますが、敷地の外から外観を眺めることができます。

重要文化財大場家住宅 保存修理工事



修理工事竣工後の姿

重要文化財大場家住宅では、令和4年に折れた北東隅木の復旧のため、保存修理工事をしました。所有者の一般財団法人大場代官屋敷保存会は、修理のための委員会で隅木が折れた原因を調査し、文化庁を交え、修理方法の検討を重ねました。



崩れた茅と軒裏に張っていた天井板などを外したところ

隅木が折れた原因は、虫食いをはじめとする複合的な要因があったと判断されました。構造計算をする上での安全率を高く設定して計算をし直した結果、折れた隅木は径が細いことが分かり、径の太い木材に取り替えました。さらに、軒の先端で受けていた屋根荷重を柱のある桁筋で支えられるような構造補強(補強母屋)を、建物の四隅に設置しています。補強材は、外せば元の形に戻るよう設置され、重要文化財の部分と区別がつくように、色味にも配慮がされています。隅木が折れたことによって崩れた茅葺き屋根や軒裏に張ってある天井板も直しています。

この修理は応急的な修理と位置づけられ、将来屋根を葺き替える時には再度構造について検討し、本格的な修理をすることになりました。



折れた隅木(左)と隅木の上に立っていた束(右)



柱がある桁の上に設置した補強用の母屋が屋根の荷重を支えています

新たに登録される国の登録有形文化財 日本聖公会東京教区東京聖十字教会聖堂

建築年:昭和36年/平成14年改修
構造:木造平屋

所在地:若林4-18-8

閑静な住宅街に建つ教会で、レーモンド建築設計事務所による設計です。アントニン・レーモンドは日本のモダニズム建築の父と言われる戦前・戦後を代表する建築家の一人です。

建物は角柱状の集成材を内側に曲げてヴォールト形(かまぼこ形)とした無柱空間となっていて、正面や腰屋根の窓から、柔らかな光が降り注ぎます。祈りの場に相応しい静謐な空間を創出しています。



世田谷区民俗調査報告 『世田谷と民俗』の刊行

1950年代の高度経済成長を境に、私たちの生活スタイルは大きく変化したといわれます。かつての生活習慣や、季節ごとの伝統的な行事について、区民の方から聞き取りを行い、民俗調査報告書を刊行しました。ほかにも社会制度や儀礼、家族と高齢者などにも焦点をあてています。令和7年4月以降、区内図書館で閲覧できます。

世田谷区文化財ボランティアの活動

世田谷代官屋敷ボランティア

世田谷代官屋敷ボランティアは、重要文化財大場家住宅の保存と活用をお手伝いするボランティアです。令和5年度末に追加募集を行い、総勢59名が登録されています。4月から7月まで座敷公開をしたほか、かまどの火入れや障子の張り替えのお手伝いなどもしました。座敷に来館者を案内すると、「貴重な経験になった」などの声が寄せられ、ボランティアのやりがいにも繋がっています。

8月にはフォローアップ講座を行い、古民家復原の映像を見たのち、日頃の活動についての感想など意見交換をしました。来館者をどのように案内したらよいか、ボランティア同士の交流をどのように図るかなど、多くの意見があがりました。

令和7年3月29日から春期の座敷公開が始まっています。(6月29日まで)



フォローアップ講座



障子の張り替え



かまどの火入れ

文化財解説ボランティア(野毛大塚古墳・等々力溪谷)

「文化財スポットガイド」では、ボランティアの皆さんが野毛大塚古墳と等々力溪谷の歴史や自然について、春期と秋期に、現地で定期的に解説しています。今年度は7月に第2期の養成講座を実施し、総勢28名の方がボランティアに登録されました。

秋期の活動から「文化財スポットガイド」としてデビューされたボランティアの方にお話を伺いました。

🔪 ボランティア活動に参加してみて、いかがですか？

- Aさん 訪問者に声をかけると、等々力溪谷についていろいろと質問されてくることもあり、そんなときはお声かけして良かったなと思いました。
- Bさん 観光案内などで少しは役に立ったのかなと思います。等々力溪谷や野毛大塚古墳について学んでいき、観光に来られる方に説明できるようになりたいと思います。

🔪 ボランティア活動に参加してみて気づいたことはありますか？

- Aさん ご自分でも興味があって色々な情報をすでに調べて良くご存知でありながら、ボランティア活動日に更に詳しい説明を求めて足を運んで来られる方がいることに驚かされました。



解説の様子

🔪 ボランティア活動中のエピソードについて教えてください。

- Aさん 谷沢川の複数の源流の正確な位置についてピンポイントに質問された方がおられて、私がちょうど近所に住んでいることもあって現場の写真をたくさんお見せすることができたときは非常に喜んでいただけました。
- Bさん 最初の等々力溪谷ボランティアガイドの時はドキドキでした。まずは自分ができるとしてパンフレットの配布をしました。トイレの場所や、現在封鎖されている等々力溪谷がいつ頃通れるようになるのか、などの質問をされました。1期生の先輩の方々は、手作りの地層マップなどで解説をされていて、さすがです。

🔪 解説にあたって工夫していること

- Aさん ボランティアがあれこれ解説し過ぎることがないように、一番知りたいポイントに絞ってできるだけコンパクトに説明するよう心がけています。

浄真寺特別公開事業

日時：11月30日（土）

奥沢の浄真寺にある「木造阿弥陀如来（九品）坐像・釈迦如来坐像」は、江戸時代初期に造られた仏像で、都指定有形文化財（彫刻）に指定されています。この9体の阿弥陀如来像を3体ずつ安置する、全国でも珍しい「浄真寺三仏堂（上・中・下品堂）」は、区指定有形文化財（建造物）に指定されています。今回は、これら文化財の修理について理解を深めていただくため、特別公開事業を開催しました。

●修理事業講演会「未来へ繋ぐ仏像修理」

9体の阿弥陀如来像は、平成26年度から、1体につき2年の期間をかけて、京都市にある公益財団法人美術院の工房にて修理が進められています。今回は、「未来へ繋ぐ仏像修理」と題して、美術院主任技師工房長の佐藤智和氏をお招きし、ご講演いただきました。講演会では、1体の仏像が京都の工房で修理されて浄真寺に戻るまでの2年間の工程を、実際に修理に携わられているご経験から詳細にお話しいただきました。

参加者からは、「修理の流れ・方法・考え方・方針など初めて聞くことが多く、とても興味深いお話を伺うことができました。」「仏像修復で緊張する点や、議論して決める点など、携わっている方ならではの話を聞き、修理写真も見せていただいてイメージが湧きました。」といった感想が寄せられました。

また、現地にて阿弥陀如来像と三仏堂の修理について、佐藤氏と区職員が解説をしました。参加者からは、「お話を伺ってから実物を見ることで、理解が深まりました。建物の裏側も見られて、貴重な時間でした。」と感想をいただきました。



講演会の様子

●三仏堂（下品堂）特別公開

普段よりも近くで阿弥陀如来像を拝観できる特別公開を、下品堂内にて開催しました。下品堂中央に安置されている下品上生像は、令和6年3月に修理を終えたばかりです。境内の紅葉も相まって、朝早くから多くの方が来場し、じっくりと見学されていました。



特別公開の様子

浄真寺修理事業（上品堂・下品下生像）

文化財の修理は、現状を維持して修理することが基本です。今年度は、上品堂の設計と下品下生像の修理をしました。

上品堂の設計は、劣化の状況などを確認し、具体的な工事の内容を検討しました。

下品下生像は、修理のため京都の美術院の工房に搬出されました。令和7年1月に修理検討会議を実施し、解体修理中の状況を確認しました。引き続き修理され、令和8年3月に浄真寺に戻る予定です。



美術院の工房にて検討会議を実施

浄真寺の「お面かぶり」が開催されました



日時：5月5日（日）

都指定無形民俗文化財の浄真寺の二十五菩薩練供養（お面かぶり）が4年ぶりに開催されました。この世を表す本堂と、極楽浄土を表す上品堂との間に、この日にだけ架けられた橋を信徒が観音菩薩・勢至菩薩など二十五菩薩のお面をつけて往復します。次回は令和10年5月5日に開催予定です。

旧清水邸書院活用事業

旧清水邸書院は、平成25年に二子玉川公園帰真園に移築復原した区の登録有形文化財です。明治時代に創建、大正時代に瀬田に移築したのち、昭和54年に区に寄贈されたものです。明治期の優れた建築を活用し、伝統文化を伝える事業を実施しています。

●香道入門教室～月見香～

日時：10月19日（土）

数種類の香木の香りを判じる「組香」を行いました。今回は季節に合わせて「月見香」という題材で実施しました。初めて香道を体験された方も多かったようですが、皆さんに香道の世界を楽しんでいただきました。「清水邸書院という素晴らしい会場で、雰囲気も含めて、日本の伝統文化を味わうことが出来ました。」という感想をいただきました。

●雛人形の展示

展示期間：令和7年2月7日（金）～3月3日（月）

3月の節句に合わせて、区民の方に寄贈いただいた雛人形を展示しました。旧清水邸書院内で、日本の伝統文化を楽しんでいただきました。



香道入門教室の様子



雛人形の展示

第17回遺跡調査・研究発表会

日時：11月10日（日）

会場：教育会館「ぎんが」

毎年、埋蔵文化財に関する調査・研究の成果を発表し、文化財保護の重要性をさらに多くの方に認識していただくことを目的として、遺跡調査・研究発表会を実施しています。今回は、府中市郷土の森博物館の深澤靖幸館長による「奈良・平安時代の世田谷」と題した特別講演と、区職員による令和5年度発掘調査の成果報告をしました。当日の講演内容を簡単にご紹介します。

●特別講演「奈良・平安時代の世田谷」

奈良・平安時代、今日の世田谷区域は武蔵国の荏原郡と多磨郡にまたがっていました。今回は、瀬田遺跡、諏訪山遺跡などの発掘調査成果をとりあげ、多磨郡勢多郷の中心集落や、荏原郡域に集中する火葬墓のあり方を紹介し、古代世田谷の人びとのくらしぶりについて考えました。

●令和5年度発掘調査成果報告

報告1 「世田谷区の埋蔵文化財」では、埋蔵文化財について概要説明を行い、世田谷区に所在する各時代の代表的な遺跡を紹介しました。

報告2 「野毛14号墳・15号墳」では、六所東遺跡第5次調査で新発見された野毛14号墳、下野毛根遺跡第6次調査で新発見された野毛15号墳の調査成果を中心に説明し、出土した埴輪について考察しました。

報告3 「堂ヶ谷戸遺跡第64次調査」では、検出された遺構や出土遺物を紹介し、調査成果を踏まえた上で、堂ヶ谷戸遺跡における縄文時代中期の集落と、弥生時代後期から古墳時代初頭の集落の様相について紹介しました。



特別講演の様子

せたがやeカレッジで
講演の動画を公開中！

1. 特別講演
2. 発掘調査成果報告



文化財標識板の設置・改修

文化財のうち、特に世田谷区と深いかかわりを持ち、その地域の歴史、文化、社会の理解に欠くことができないものについて、文化財標識板（説明板）を設置し、適宜改修等を実施しています。

令和6年度は、奥澤神社をはじめとする13件の改修と、右表の7件の新規設置を実施しました。

新規設置（7件）

- ① 桜木遺跡（桜1-48）
- ② 乗泉寺世田谷別院のクスノキ（宮坂2-1-5）
- ③ 慶元寺のケヤキ（喜多見4-17-1）
- ④ 駒留八幡神社のクロマツ（上馬5-35-3）
- ⑤ 行善寺のヒノキ（瀬田1-12-23）
- ⑥ 静嘉堂のギンモクセイ（岡本2-23-1）
- ⑦ 松沢病院のタギョウショウ（上北沢2-1-1）



世田谷デジタルミュージアム

区の歴史や文化を今に伝える数多くの文化財や関連資料をデジタルアーカイブ化し、誰でも気軽に文化財に触れられるウェブサイト「世田谷デジタルミュージアム」を公開しています。

「世田谷デジタルミュージアム」のスペシャルコンテンツとして、文化財紹介動画も公開しています。今年度は以下の動画を新たに公開しました。



世田谷デジタルミュージアム
2次元コード

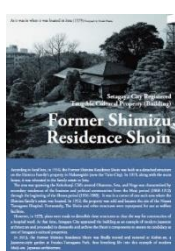
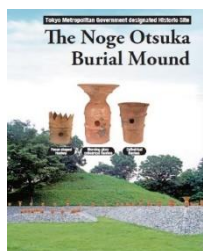
文化財紹介動画「世田谷区指定天然記念物」

令和6年2月に、世田谷区では初めて区指定天然記念物に指定した「乗泉寺世田谷別院のクスノキ」、「慶元寺のケヤキ」、「玉川神社のクスノキ」を動画で紹介しています。上空からの撮影で、日ごろは見る事ができない樹木の姿も収録しました。雄大で美しい区指定天然記念物を、ぜひご覧ください。



英語版パンフレット

「野毛大塚古墳」と「旧清水邸書院」のパンフレットについて、英語版を作成しました。

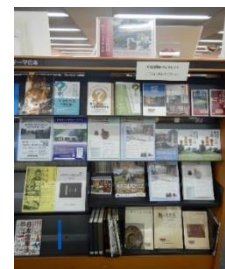


中央図書館テーマ本コーナー

展示期間：10月25日（金）～11月27日（水）

区立中央図書館1階のテーマ本コーナーにて、「世田谷の文化財に触れてみませんか？」というテーマで、区内の文化財に関連した書籍やパンフレットなどを配架しました。

10月から11月の間、東京都では「東京文化財ウィーク」と題して、都内各地にある様々な文化財の公開や、文化財に関するイベントを実施しています。今回のテーマ本コーナーは、東京文化財ウィークに合わせて展示しました。



展示の様子

なぞなぞブック

「せたがや歴史文化物語」は、区内の文化財の魅力を高め、分かりやすくその価値を伝えようとはじめられた事業です。まち歩きとワークショップにご参加された方からのご意見などをもとに、各々の文化財とそれにまつわるストーリーを紹介する「なぞなぞブック」を発行しています。

今年度は、昨年度のワークショップのアイデアをまとめ、なぞなぞウォーキング6「烏山今昔散歩」を刊行しました。



世田谷の郷土学習

世田谷の歴史文化の授業をとおして郷土「せたがや」を学び、貴重な文化財や歴史・文化を次世代に継承することを目的としています。

世田谷代官屋敷・郷土資料館・次大夫堀公園民家園・岡本公園民家園を活用して、小学校向けに社会科見学(延べ52校)、出張授業(4校)、昔の暮らし体験学習(2校)を実施し、世田谷の移り変わりや農家の暮らしなどについて、解説や体験を行いました。



社会科見学の風景
(世田谷代官屋敷)

郷土資料館事業

特別展 成城の歩み100年

会期:10月26日(土)~12月16日(月)

ミニシンポジウム「近現代のまちづくりと住民-学園都市・成城を事例に-」:11月10日(日)

まち歩き「成城探訪」:11月6日(水)、16日(土)、12月1日(日)

今年度の特別展では成城に焦点を当て、成城学園とまちづくり、小田急線の開通、世田谷と東宝撮影所の3部構成として、開発期を中心にその歴史を紹介しました。

展示図録発行の他、関連企画としてミニシンポジウムやまち歩き、ギャラリートークを実施しました。

ミニシンポジウムでは区職員のほか3名の登壇者(石神隆氏・法政大学名誉教授、荒垣恒明氏・成城学園教育研究所、小林宏志氏・世田谷トラストまちづくり)から、成城についてそれぞれの知見からお話をいただきました。また、まち歩きでは、成城の歴史を解説すると共に、洋風建築や樹木、生け垣など成城らしい風景を見学しながら歩きました。



民家園事業

収蔵資料展「大工の描いた仕事

—原田家に遺された図面資料—

会期:7月2日(火)~9月29日(日)

大工職・原田家(尾山台)の建築図面を中心に展示し、原田家三代にわたる大工職の在り方を紹介しました。



展示風景

次大夫堀公園民家園企画展「稲作モノ語り」

会期:11月1日(金)~令和7年1月1日(水・祝)



企画展関連イベントの
縄ない機実演

近代以降の稲作についてパネルや映像で紹介し、昔の農具「千歯扱き」を使った体験も実施しました。

関連イベントでは、馬に昔の農具を引かせる「水田の代掻き再現」や、稲わらの利用を取り上げた「藁ぼっち作り体験と縄ない機の実演」を実施しました。

民家園ボランティアの取り組み

民家園スタッフの一員として年間を通じて活動する綿の会、藍染めの会、岡本紙漉きの会といった民家園ボランティア10団体は、再現実演をとおして来園者が世田谷の歴史を学ぶ事業に取り組んでいます。

令和6年度は、農村にみられたものづくり等の体験を通じて、子どもをはじめとする参加者が、文化財に親しめる事業「昔の農村体験」を春と夏に開催しました。



糸つむぎ体験
(昔の農村体験-夏の巻-)

お知らせ

次大夫堀公園民家園の旧安藤家住宅主屋は、構造の一部に不具合があるため、改善のための補強工事等を実施する予定です。そのため、来園者の安全を優先し、現在主屋内への入場見学を中止しております。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。